

野田秀樹の代表作『パンドラの鐘』を熊林弘高の演出、  
門脇 麦、緒川たまき、金子大地ら多彩なキャストで上演決定！

水戸芸術館では、現代日本の演劇を牽引する野田秀樹の傑作『パンドラの鐘』を、気鋭の演出家・熊林弘高の演出で5月に上演します。本作は、「遺跡の発掘」「古代の天皇の殉死」「長崎への原爆投下」など複数のモチーフと時間・空間が交差し、イメージが乱反射する野田秀樹の代表作。

キャストは大河ドラマ「麒麟が来る」のヒロイン役で鮮烈な印象を残した門脇麦、実力派俳優の緒川たまき、舞台・映像に大活躍の若手俳優・金子大地に、アーティストとしても活躍する松下優也など、注目の俳優陣が競演します。

つきましては、貴媒体にて広くご紹介頂けますと幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。

『パンドラの鐘』 2021年5月22日(土)18:00開演  
5月23日(日)13:00開演

【会場】水戸芸術館ACM劇場

【料金】全席指定／S席6,500円、A席5,000円 \*チケット一般発売

【作】野田秀樹 4/3(土)9:30～

【演出】熊林弘高

【出演】門脇 麦 金子大地

松尾 諭 柁木玲弥

木山廉彬 長南光生 八条院蔵人

松下優也 緒川たまき

【チケット取り扱い】水戸芸術館 (9:30～18:00 / 月曜休館)

【電話】チケット予約センター Tel.029-225-3555 【Web】<https://www.arttowermito.or.jp/ticket/>

【窓口】エントランスホール内チケットカウンター \*感染症予防対策を行った上で開催致します。



(写真:野口博)

【あらすじ】

物語の舞台は、太平洋戦争開戦前夜の長崎。歴史の謎に惹かれ、考古学者たちが掘り起こしたのは、土深く埋もれた巨大な古代の鐘。その鐘の姿から、歴史から遠く離れた古代王国と、鐘と一緒に葬られた古代の秘密が浮かび上がる。決して覗いてはならなかった『パンドラの鐘』に記された王国滅亡の謎とは？ そして、古代の光の中に浮かび上がった<未来>のゆくえとは？

～野田秀樹氏のコメント～



「天上天下唯我独尊(てんじょうてんげゆいがどくそん)」とは、「ジーザス・クライスト」と並び称せられる、あの「お釈迦様」が生まれた時に発した言葉だ。訳せば「この世に俺ほど尊いやつはいねえぜ」である。聞きようによっては、どんだけ傲慢？な響きを持つ言葉だ。だから案の定、この「唯我独尊」が、お釈迦様以外の口から発せられると、「独りよがり」などと訳されもする。だが、熊林氏の演出を見る時、私がいつも感じる、この人の「唯我独尊ぶり」の訳は、「独りよがり」の方ではなくて「お釈迦様」サイドの方である。つまり「尊い」方の「唯我独尊」訳である。世間だろうがコロナだろうが我関せず、熊林氏ならば、脚本をひたすら深く深く読み込み、自分が信じた通りの世界を創るだろう。熊林氏の「唯我独尊」にどっぷり浸った『パンドラの鐘』は、どんな響きをもって、天上天下に鳴り渡るのだろう。I have been looking forward to listening to it. 因みにこの日本語訳は「楽しみだ」である。……短い。

野田秀樹

『パンドラの鐘』は1999年、NODA・MAP第七回公演として世田谷パブリックシアターで初演され、紀伊國屋演劇賞個人賞・読売演劇大賞最優秀作品賞・芸術選奨文部大臣賞(演劇部門)などを受賞した名作です。20世紀末に、野田本人が演出を手掛けたバージョンと、シアターコクーンで蜷川幸雄が演出をしたバージョンがほぼ同時上演され、二人の演出対決が演劇界のみならずエンターテインメント界の話題を席巻しました。

企画について:水戸芸術館演劇部門 高比良 Tel.029-227-8123

掲載について: 同 広報係 川崎 Tel.029-227-8111

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8 <https://www.arttowermito.or.jp/>